

派遣報告書（報告者；佐田明美）

大会名	令和7年度国民スポーツ大会第45回九州ブロック大会
開催地	長崎県立総合体育館、
日時	令和7年8月29日（金）～8月31日（日）
担当ゲーム1	（少年女子予選リーグ 第3試合） 鹿児島沖縄 vs 長崎
クルー	CC：岩尾圭治（熊本県A級） U1：佐田明美 U2：末信優華（福岡県A級）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦なので、初戦で負けている鹿児島県は勝ちにこだわってくる。点差も重要。 ・長崎県は地元開催なので、応援も多い。サブコートなので1コートだが、笛を大きく、分かりやすく。 ・ベーシックなメカとプライマリの尊重。 ・TOは高校生なので、丁寧にコミュニケーションをとりながら行う。 	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference（Crew Meeting）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ターンオーバーが多く、ショットクロックを何度もリセットしなければならない場面があったが、審判のジェスチャーとショットクロックオペレーターとの協力によって問題なく進められた。 ・ほぼ、シングルコールだったので、プライマリの審判が鳴らしていたことと、ケイデンスでの判定ができていた。 ・UFの場面では、クルーでスムーズは情報整理とクライテリアの確認ができたため、チームにもわかりやすく説明できた。その中で「ファールをされたのは誰か」との話をしなかったが、シューターを逃すことはなかった。ファールをした選手、された選手は必ず掴んでおくこと。 ・選手のケガにより、ゲームを止めた場面では慌てないこと。明らかにフロントコートに入ってから止めた方がよい。 	
担当ゲーム2	（成年女子決勝リーグ 第3試合） 福岡 vs 鹿児島
クルー	CC：岩尾圭治（熊本県A級） U1：萩尾繁治（福岡県A級） U2：佐田明美
（担当ゲーム2）Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生留学生がボールサイドにいれば、積極的にローテーションを行い、ボールサイド2をつくる。 ・センターサイドのコフィンコーナーでトラップがあったときは、リードがセンターを押し上げる。 ・ショットクロックの不具合が出る可能性があるので、慌てて止めないこと。表示が出ないだけで、システムは動いている。 ・お互いにオールコートディフェンスを仕掛けてくるので、テンポセットとして、イリーガルな手の使い方は判定していく。 ・コーチの音が響くので、インテグリティやアピールについては、コミュニケーションを取る。 ・交代、タイムアウトやインターバル明けのゲーム再開を審判が主導してスムーズに行う。 	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference（福岡敏徳氏（長崎県T級IR））	
<ul style="list-style-type: none"> ・3人がそれぞれ自分たちのこれまでの経験をいかして、落ち着いて吹いていた。 ・3Qのナチュラルインターバルの際に、無理してゲームを止めなくても良かった。映像を振り返ると確かにファールに見えるが、それを取り上げて審判がゲームの流れを止めることは、チームにとっては有効ではない。 ・以前と比べ、リードの立つ姿勢が良くなっている。 	

今大会に参加しての感想など

今大会は、滋賀国スポの出場権をかけた大会ですが、審判としてはA級更新講習と2級IR更新講習を7おこないました。JBAより4名の講師を迎え、ゲーム後は、映像の振り返りをしながら、皆でポストゲームカンファレンスにも参加しました。チームは県の威信をかけて、少年、成年ともに各県の代表選手が出場しています。審判としても、公平、公正、スムーズなゲーム運営を心掛けるよう準備して大会に臨みました。

普段のブロック大会の際は、九州内のS級審判やインストラクターの方々にアドバイスをいただくことが多いですが、今回は1級IR、T級IRの方々にアドバイスやゲームを一緒に見ながら、疑問点を質問したり、インストラクターとしてどのような言葉を使えばいいのかなどを聞きとめるよう意識しました。

県内でも振り返りの際に、的確に、より次のゲームに生かすことができるような言葉の選択をしていきたいと思います。

先週に引き続き、派遣していただいた大分県協会、審判委員会の皆さま、ご指導いただいた松本ブロック長、福岡インストラクター長、JBA 講師の皆さま、長崎県協会、審判委員会の皆さま、各県の T0 委員会の皆さま、大会関係者の皆さまに感謝し、報告といたします。